

2016年3月28日

ロボカップジュニアジャパン オープン 2016 愛知大会に参加して

2015年度ロボットサイエンス部副部長
「Otemon Rocket Brothers」チームリーダー
高校3年 藤井一樹

3月26日から28日にかけて、ロボカップジュニア2016の全国大会があり、その大会のレスキューメイズという種目に出場しました。僕たちはレゴを中心としたロボットを使って大会に出場しました。しかし、大会ではセンサーを使って熱を感知しなければならず、レゴには熱を感知する手段がないため、その部分だけアルディノー基盤を使ってロボットを作りました。

ロボカップという大会自体、クラブとしても個人としても出場するのは初めてだったので、次に出場するときの糧となるような情報を集めることを主とし、活動してきました。そしてそこで得てきたものは、自分が想像していたものよりもはるかに大きいものでした。

まずは全国大会のレベルの高さです。メイズではレゴブロックを使わない純基盤ベースのロボット多く出場すると思っていましたが、が意外にも3割程度しか出場していませんでした。レゴブロックと基盤を3:7ぐらいの割合で合体させてあるロボットが6割、レゴブロックと熱探知のための基盤を取り付けたロボット（僕たちのロボットと同じ形式）が残りの1割を占めていました。ロボットの足は四輪駆動が多かったです。僕たちのクラブではそこまでの技術力はまだなく、基盤を使うこと自体が初めてだったので、全国の壁はとてつもなく大きいものに見えました。そして強いチームを観察したりそのチームの人と話をしてみると自分たちのチームには無いものがわかりました。それはコミュニケーション能力でした。

技術面でもそのチームは高いレベルのものでしたが、そのレベルに達するまでには必ずコミュニケーション能力が必要だと思いました。なぜなら、その能力は情報収集をするために非常に不可欠なものだったからです。たとえば、強豪チームであっても他のチームで使えると判断された技術があると、その技術のポイントなどを聞いたり、写真を撮らせてもらったりしていました。

今回の大会を通して必ず実行しなければならないことがいくつも浮かび上がってきました。その中で必要だと思うもののひとつに、いろいろな情報を発信したり、または他人に意見を求めたりすることができるような媒体を活用することなどもあります。そして、今回学んだ多くの事を漏れなくクラブの部員全員、そして後輩達へ伝えていきたいと思いました。